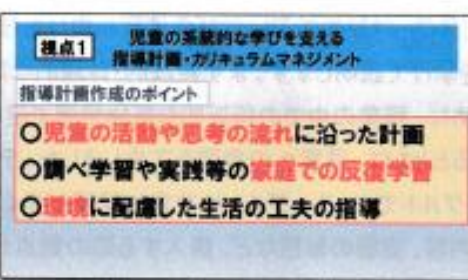

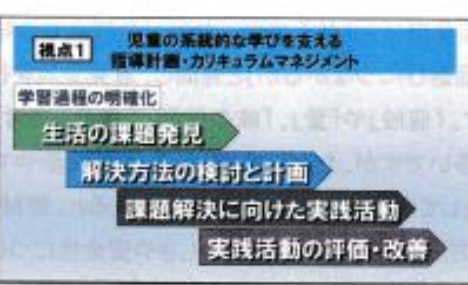



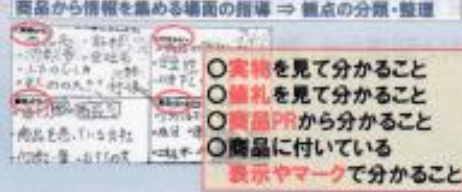

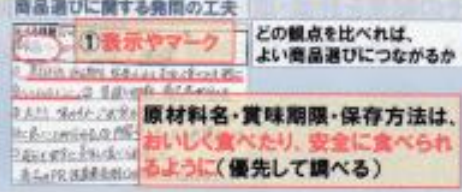


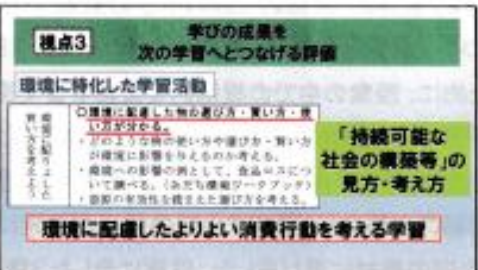


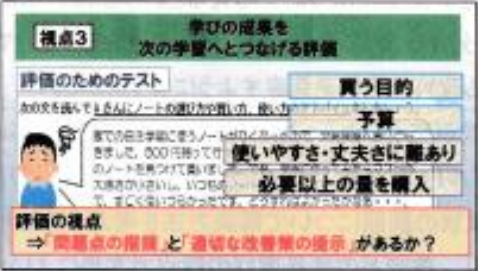

ス ラ イ ド 1	 <p>東京都公立小学校家庭科研究会</p> <p>足立区立伊興小学校 橋本 英明 足立区立東加平小学校 富野 彰 足立区立東洲江小学校 佐藤 恵美子</p>	<p>ただいまより、東京都公立小学校家庭科研究会の発表を行います。よろしくお願いいたします。</p>
ス ラ イ ド 2	<p>研究主題</p> <p>全国小学校家庭科教育研究会 研究主題 豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育</p> <p>↓</p> <p>東京都公立小学校家庭科研究会 研究主題 よりよい生活を自ら創り出す子供の育成</p>	<p>本研究について説明します。小学校学習指導要領及び全国小学校家庭科教育研究会の研究主題を受け、本研究会では研究主題を「よりよい生活を自ら創り出す子供の育成」とし、都内各校で研究を進めています。</p>
ス ラ イ ド 3	<p>育てたい児童の姿</p> <p>知識及び技能 生活事象の科学的な理解に基づき、 基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、家庭で実践できる児童</p> <p>思考力、判断力、表現力 よりよい生活の仕方について自分なりの課題をもち、 既習事項を活用して「生活の営みに係る見方・考え方」を 働かせながら、計画・実践・振り返り・改善ができる児童</p> <p>学びに向かう力、人間性等 家庭の一員として、実践を大切にしながら粘り強く取り組み、 よりよい生活を自ら創り出そうと主体的に取り組む児童</p>	<p>本研究会ではこの研究主題について、家庭科学習を通して次のような資質・能力を身に付けた児童を育成したいと考えています。（研究紀要1ページの3点を示す）</p>
ス ラ イ ド 4	<p>育てたい児童の姿</p> <p>自らの家庭生活 家庭科での学び 自らの将来 地域社会との関わり</p> 	<p>これらを育成することにより、児童が家庭科での学びを、自らの家庭生活だけでなく、自らの将来や地域社会との関わりにも結び付けながら考えられるようになるのではないかと考え、指導の改善に取り組んでまいりました。</p>
ス ラ イ ド 5	<p>研究の視点</p> <p>視点1 児童の系統的な学びを支える 指導計画・カリキュラムマネジメント</p> <p>視点2 主体的・対話的で深い学びの 実現に向けた授業改善</p> <p>視点3 学びの成果を 次の学習へとつなげる評定</p> <p>視点4 家庭や地域との 連携・協働</p>	<p>主題に迫るための研究の視点を説明します。本研究会では、学習指導要領の趣旨を踏まえながら、次の4点を研究の視点として設定しています。これらの視点に応じて、必要な手だてを講じました。</p>
ス ラ イ ド 6	<p>題材名</p> <p>第5学年 「つなごう！未来へのバトン 私たちの生活と物・お金」 C「消費生活・環境」</p> 	<p>次に、研究の概要について説明します。本研究では、内容C「消費生活・環境」に関する題材に焦点を当てました。主に授業研究を行ったのは、足立区小学校家庭科研究会です。 題材名は「つなごう！未来へのバトン 私たちの生活と物・お金」、指導学年は第5学年です。</p>

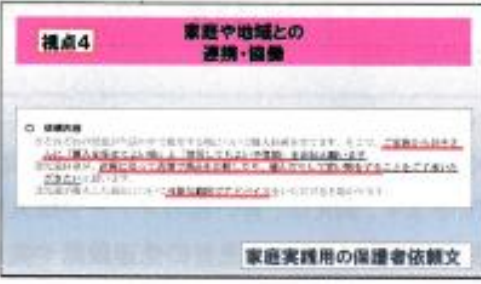
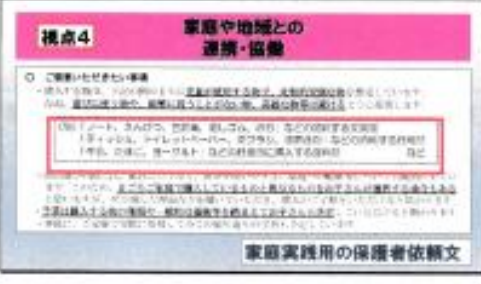



ス ラ イ ド 7		<p>この題材に関する、児童の実態です。(円グラフ1)これは、足立区小学校家庭科研究会が令和元年度～2年度にかけて実施した、区内の5年生対象「お金の使い方に関するアンケート」の結果です。およそ1割の児童は自分で商品を選んで購入する経験がないことが分かりました。(円グラフ2)家族とお金の使い方を話し合う機会に関する設問では、35%の児童が「1度もない」「覚えていない」と答えました。商品選びの経験がある児童が9割であったことを考えると、家庭内での金銭に関するルール決めなどが十分にされていない、または浸透していない可能性があり、学校においても金銭の使い方を見つめ直す機会が必要と考えました</p>
ス ラ イ ド 8		<p>(円グラフ3・4)これは、本研究会が平成30年に実施した東京都内抽出校の6年生対象の「家庭科学習に関する意識調査」の結果です。家庭科学習が環境保全につながるという認識、また家庭科学習により環境を考えた生活を心がけるようになったという児童はいずれも7割程度にとどまっています。こうした結果から、家庭科学習を通して消費者の一員として金銭の使い方だけでなく、環境へ配慮した選び方・買い方についての意識の醸成を図りたいと考えました</p>
ス ラ イ ド 9		<p>これらの実態を受け本題材では、児童が消費生活や環境に配慮した生活の工夫について、自らの生活から課題をもち改善することが必要であると考えました。また、「持続可能な社会の構築等」の見方・考え方を働かせながら自らの消費生活の在り方を考え、未来の創り手としての自覚や責任をもって行動できる児童を育てたいと考えました。</p>
ス ラ イ ド 1 0		<p>以上より、目指す資質・能力を次のように設定しました。(紀要1ページ太枠と同じ)</p>
ス ラ イ ド 1 1		<p>本題材の目標は次の通りです。(3観点を順に示す)「内容C(2)A環境に配慮した生活の工夫」に関する知識及び技能について、目標に加えています。(該当部分赤線)</p>


ス ラ イ ド 1 2		<p>ここからは、研究について視点に沿って説明いたします。まずは視点1、児童の系統的な学びを支える指導計画、カリキュラム・マネジメントです。</p> <p>先ほど示した資質・能力に迫るにあたり、指導計画を立てる際に重視した点が3つあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、児童の活動や思考の流れに沿った計画にすること 2、家庭で調べたり実践したりする課題を繰り返すこと 3、環境に配慮した生活の工夫に関する指導を計画に組み込むこと <p>の3点です</p>
ス ラ イ ド 1 3		<p>これらを踏まえた2年間の題材配列及び本題材の指導計画は、研究紀要をご覧ください。題材の指導計画の作成にあたっては、昨年度の全国大会東京大会での提案を継承し、2年間の学びの中でどのような題材と関連させ、評価を行うかを示しました。</p>
ス ラ イ ド 1 4		<p>題材の指導計画では、児童が日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決に向けて様々な解決方法を考え、計画を立てて実践し、その結果を評価・改善し、さらにそれを家庭や地域で実践するという一連の学習過程を明確化し、図示しました。</p>
ス ラ イ ド 1 5		<p>本題材では、他教科との関連を図った指導を推進しました。まずは、このQRコードを、お手持ちのスマートフォンなどで読み込んでみてください。これは足立区の環境政策課を中心に、小学校家庭科部・理科部・社会科部の教員が集まって製作に関わった「あだち環境ワークブック」の学習サイトです。環境に関する学習は、学年や教科を横断するテーマのため、どのような内容をどの学年でどの程度指導するかは理解が教員間でも難しく、表面的な指導にとどまりがちであるという声が寄せられていました。これらの声を受けて、足立区で作成した3年間継続使用できる学習教材が、この環境ワークブックです。ご覧の通り、WEBサイトは区外の方も自由に利用できますので、ぜひご活用いただきたいと思います。</p>
ス ラ イ ド 1 6		<p>本題材でも、3R・環境に関する表示・食品ロスのテーマについて、このサイトを活用した調べ学習や意見交換を行いました。このように、教科横断的な学習を支える教材の開発により、既習事項と家庭科で新たに学ぶ内容とを結びつけて、効果的に指導できました。</p>

ス ラ イ ド 1 7	<p>視点2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善</p> <p>実践的・体験的な活動を充実させるための教材</p> 	<p>続いて視点2、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について、例を挙げて説明します。まず実践的・体験的な活動の充実を図るために、授業の中での模擬的な買物学習で使用する教材を開発するとともに、児童への発問を工夫しました。テーマにしたのは、ヨーグルトです。ヨーグルトは非常に種類が多く、量、味の種類、表示内容、容器の形態など、購入する際の観点が非常に多いことから、今回の教材に選びました。児童に示した3種類の資料について、こちらのQRコードからご覧いただけますので、参考にしてください。</p>
ス ラ イ ド 1 8	<p>視点2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善</p> <p>商品から情報を集める場面の手導 → 観点の分類・整理</p>  <ul style="list-style-type: none"> ○実物を見て分かること ○包装を見て分かること ○商品PRから分かること ○商品に付いている表示やマークで分かること 	<p>この学習では、まず3つの商品から情報を集める際の観点について児童から意見を募り、ご覧の4つに分類・整理しました。</p> 
ス ラ イ ド 1 9	<p>視点2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善</p> <p>商品選びに関する発問の工夫</p>  <p>どの観点を比べれば、よい商品選びにつながるか</p> <p>原材料名・賞味期限・保存方法は、おいしく食べたり、安全に食べられるように優先して調べる)</p>	<p>その後、すぐに商品選びをさせるのではなく「どの観点を情報を比べれば、よい商品選びにつながるか」と発問し、意見交流を行った点がポイントです。「値段」や「量」、「味の種類」を優先して考えると答える児童が多いですが、たとえばこの児童は、「表示やマーク」の観点を優先して示しています。理由の欄を見ると、原材料や賞味期限、保存方法を調べることで、おいしさや安全性について考えるという意図が示されていることがわかります。こうした比較の仕方を知ることで、ほかの児童も改めて商品を見直すようになりました。</p>

ス ラ イ ド 1	 <p>視点2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善</p> <p>実践的・体験的な活動を充実させるための教材</p> <p>YOGURT</p> <p>QRコード</p>	<p>続いて視点2、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について説明します。まず実践的・体験的な活動の充実を図るために、授業の中での模擬的な買物学習で使用する教材を開発するとともに、児童への発問を工夫しました。テーマにしたのは、ヨーグルトです。非常に種類が多く、量、味の種類、容器の形態など、購入する際の観点が非常に多いことから、今回の教材に選びました。児童に示した3種類の資料を、こちらのQRコードからご覧いただけますので、参考にしてください。</p>
ス ラ イ ド 2	 <p>視点2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善</p> <p>商品の比較に関する発問の工夫 → 観点の分類・整理</p> <p>商品の比較に関する発問の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇実物を見て分かること 〇値札を見て分かること 〇商品PRから分かること 〇商品に付いている表示やマークで分かること 	<p>この学習では、まず3つの商品から情報を集める際の観点について児童から意見を募り、ご覧の4つに分類・整理しました。</p>
ス ラ イ ド 3	 <p>視点2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善</p> <p>商品の比較に関する発問の工夫</p> <p>①表示やマーク</p> <p>どの観点を比べれば、よい商品選びにつながるか</p> <p>原材料名・賞味期限・保存方法は、おいしく、安全に配慮して食べられるように(優先して調べる)</p>	<p>その後、すぐに商品選びをさせるのではなく「どの観点が情報を比べれば、よい商品選びにつながるか」と発問し、意見交流を行った点がポイントです。「値段」や「量」、「味の種類」を優先して考えると答える児童が多いですが、たとえばこの児童は、「表示やマーク」の観点を優先して示しています。理由の欄を見ると、原材料や賞味期限、保存方法を調べることで、おいしさや安全性について考えるという意図が示されていることがわかります。こうした比較の仕方を知ることで、ほかの児童も改めて商品を見直すようになりました。</p>
ス ラ イ ド 4	 <p>視点2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善</p> <p>商品の選択に関する発問の工夫</p> <p>あなたが家族に選ぶならどの商品を選ぶか</p> <p>3つの商品について量(個数)と値段の関係を比較 → 自分の家族に合わせて 無駄なく安く買う</p>	<p>商品の比較が終わったら、次に「あなたが家族に選ぶとしたどのヨーグルトにしますか」と発問しました。これにより、児童が自分と家族の課題について解決方法を考える活動へとレベルアップし、先ほどの商品選びの観点で本当によいか、再度思考できました。このように、一つのテーマについて発問を変え、何度も考えさせることで、多様な考え方を引き出しました。(学習シート)この児童は、3つの商品について量と値段の関係を計算し、表にして比較しています。(学習シート)</p>
ス ラ イ ド 5	 <p>視点2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善</p> <p>商品の選択に関する発問の工夫</p> <p>あなたが家族に選ぶならどの商品を選ぶか</p> <p>家族構成と分量</p> <p>商品の構造と保存</p> <p>1円当たりの量</p> <p>添加物の有無</p>	<p>この児童は、家族の人数と食生活の実態から無駄なく、安く買う方法を検討し、自分の思考を整理しながらどのヨーグルトを選ぶかを文章で説明しました。こうした一連の、主体的・対話的な学習を促すための授業改善により、児童の多面的・多角的な思考を促し、よりよい生活に向け考えの再構築しようとする姿へと結びつきました。</p>

ス ラ イ ド 6		<p>続いて視点3、学びの成果を次の学習へとつなげる評価について説明します。本題材では、「持続可能な社会の構築等」の視点を働かせた実践につながるよう、環境に特化した学習活動を1時間設定し、環境に配慮した消費行動、特に「物の使い方」に関する理解が深まるようにしました。</p>
ス ラ イ ド 7		<p>3Rは4年生の社会科ですでに学習していますが、生活に結び付けて具体的に考えられる児童は少なかったため、「物を選ぶ時や買う時」「物を買った後の使い方」の2場面に分けて発問し、児童の考えを分類・整理して共有しました。これは児童の記入例です。この学習の最後に環境に配慮した消費行動について日頃からできることについて発問したところ、多くの児童が具体的な策について記述できました。</p>
ス ラ イ ド 8		<p>これは児童が記入した学習感想です。環境に配慮した消費行動について「リデュース」の必要度が高いことを理解しており、できることを具体的に記述できました。授業の終わりの意見交流の中では「物の使い方を工夫すれば、何回も買わなくても済む」「買物が終わった後も、買い方を見直す必要があるから、買物は実は終わっていない」といった発言もありました。このように、記述・学習シートの双方において、児童の意識の変容を見取ることができました。</p>
ス ラ イ ド 9		<p>物の選び方・買い方に関する児童の思考力や判断力の定着状況を評価するために、テスト問題も工夫しました。問題文では、事前に「ノートを買う目的」と「予算」があったことを示しています。また、購入してから振り返った時に「使いやすさ・丈夫さ」に難があった点や、必要以上の量を購入して無駄になってしまった点も示しています。こうした点に気付きながら問題点の指摘と改善策の提示が具体的に示されている児童について「大変よくできている」と評価しました。</p>
ス ラ イ ド 10		<p>最後に視点4 家族や地域との連携・協働についてです。題材の締めくくりとなる第7時～8時では、学習した商品の選び方・買い方について、家庭生活で応用するための計画を立て、実践を行いました。</p>

ス ラ イ ド 11	 <p>家庭実践用の保護者依頼文</p>	<p>この実践では、児童やその家族が本当に必要としている物を、児童自身が選択・購入する経験ことが消費者としての責任や自覚が生まれると考え、各家庭で買物実践を行うことを保護者に依頼しました。</p>
ス ラ イ ド 12	 <p>家庭実践用の保護者依頼文</p>	<p>保護者向けの依頼文には「児童も使用する物で、比較的安価な物」として、具体例を挙げました。</p>
ス ラ イ ド 13	 <p>実践シート(牛乳の例)</p>	<p>これは、児童の実践シートの一部です。授業のヨーグルトの例で行ったことと同じことを、家庭実践にも生かせるように、いくつかの商品の候補から情報を集めたあと、どの情報を比較したのかがわかるようになっています。この児童は、牛乳を購入する際に家族に必要な量、環境に配慮した表示、産地を調べて比較しています。</p>
ス ラ イ ド 14	 <p>実践シート(トイレトペーパーの例)</p>	<p>この児童は、トイレトペーパーを購入しました。知らないマークは、インターネットを活用して調べたそうです。シングルとダブルの違いなど、同じ値段で同じロール数でも異なることに気がきました。児童によってさまざまな気づきがあり、実践発表会では、他の児童の実践例を興味深く聞く児童が多くみられました。この実践に当たり、多くの児童が利用することが予想される近隣スーパーや雑貨屋には、あらかじめ学習のねらいを伝えておき、地域にも協力を得ました。</p>
ス ラ イ ド 15	 <p>研究の成果</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 題材配列の工夫・教科を横断した学習教材 ⇒ 系統的な理解、カリキュラム・マネジメント ② 体験的な活動の充実や発問の明確化 ⇒ 児童の主体的で対話的な学習を促進 多面的・多角的な思考の育成 ③ 「持続可能な社会の構築等」の視点を重視 ⇒ 児童の考えや行動の変容を評価 	<p>最後に、研究の成果と課題です。</p> <p>成果1、題材配列の工夫や教科を横断した学習教材の開発等により系統的な理解を促すことができました。環境スタートブックの開発など、教科の枠を超えた取り組みにより、効果的なカリキュラム・マネジメントを行うことができました。</p> <p>成果2、体験的な活動の充実や発問内容の工夫により、児童の主体的で対話的な学習を促進し 見方・考え方を働かせながら多面的・多角的に 思考、判断、表現する児童を育成できました。</p> <p>成果3、「持続可能な社会の構築等」の視点を重視した指導により、児童の考えや行動が環境に根差したものへと変容</p>

		し、主体的に自分や家族の生活を改めようとする児童の育成へとつながりました。
ス ラ イ ド 16	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>研究の課題</p> <p>◎消費行動の変化に対応した指導の検討 特にコロナ禍における行動の変化への理解 (例)・買い物のマナー ・購入方法や支払方法の多様化 ⇒児童の発達段階や 実態に応じた指導の工夫</p> </div>	<p>最後に、今後の課題です。</p> <p>コロナ禍の影響による消費行動の変化に対応した指導を、今後検討していきます。例えば、買い物のマナーや購入方法や支払い方法の多様化について、児童の発達段階や実態に応じた指導の工夫を考えていきます。</p>
ス ラ イ ド 17	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p style="text-align: center;">ご清聴ありがとうございました</p> </div>	<p>以上で、東京都公立小学校家庭科研究会の発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。</p>